

# 令和5年度 北海道文化財年報



「北海道白滝遺跡群出土品」 (遠軽町)



「北海道常呂川河口遺跡墓坑出土品」 (北見市)



「西別湿原ヤチカンバ群落」 (別海町)



「佐女川神社寒中みそぎ神事」 (木古内町)



「勝山館跡宮ノ沢右岸出土品」 (上ノ国町)

令和6年12月

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

## はじめに

北海道には、長い間受け継がれてきた貴重な文化財が数多く残されています。これらは、北海道の歴史や文化を正しく理解するために欠かせないものであり、次の世代に確実に守り伝えていく必要があります。

文化財を保護するためには、調査や保存・整備・修理だけではなく、公開や情報発信を積極的に行い、その価値や魅力を多くの人々が共有することが大切です。北海道教育委員会では、文化財の価値を正しく理解し、地域全体で後世に伝えていくため、文化財に親しむ機会の提供や多様な情報の発信などを通して、文化財の保存・活用に取り組んでいます。

この年報では、「北海道白滝遺跡群出土品」、「北海道常呂川河口遺跡墓坑出土品」、「西別湿原ヤチカンバ群落」など、新たに指定・登録された文化財や、北海道教育委員会が実施した文化財の各種調査や保存・整備、普及活用事業など、この一年間の文化財保護の歩みについて、写真・イラストを用いてわかりやすく紹介しています。

この年報を御活用いただき、文化財をより身近に感じていただければ幸いです。

### 【表紙の写真】

- |                                     |              |
|-------------------------------------|--------------|
| ○国宝「北海道白滝遺跡群出土品」                    | 令和5年6月27日指定  |
| ○重要文化財<br>「北海道常呂川河口遺跡墓坑出土品」         | 令和5年6月27日指定  |
| ○天然記念物「西別湿原ヤチカンバ群落」                 | 令和6年2月21日指定  |
| ○道指定無形民俗文化財（風俗慣習）<br>「佐女川神社寒中みそぎ神事」 | 令和5年11月28日指定 |
| ○道指定有形文化財（考古資料）<br>「勝山館跡宮ノ沢右岸出土品」   | 令和5年11月28日指定 |

詳しくは、2ページ以降で紹介しています。

# 目 次

## I 令和5年度文化財保護の主なあゆみ

1	新たに指定・登録された文化財	P 2
	(1) 国指定文化財	P 4
	(2) 道指定文化財	P 7
	(3) 国登録文化財	P 9
2	世界遺産の保護に向けた取組について	P 15
	(1) 縄文遺跡を紹介するデジタルコンテンツの作成	P 15
	(2) ゲストティーチャー授業の実施	P 16
	(3) 世界遺産子どもサミットの開催	P 16
	(4) 北海道世界文化遺産活用推進実行委員会	P 17
	(5) 縄文遺跡群の保存活用推進体制への参加	P 17
3	古代集落遺跡群の保護について	P 18
	(1) 北海道東部の竪穴住居跡群調査	P 18
	(2) 北海道古代集落遺跡群保存活用協議会	P 18
4	日本遺産 (Japan Heritage) について	P 19
5	北海道文化財保護強調月間について	P 24
6	アイヌ民俗文化財の保存・伝承	P 26
	(1) アイヌ民俗文化財調査事業	P 26
	(2) アイヌ民俗文化財伝承・活用事業	P 26
7	指定文化財の保存整備(国庫補助事業)	P 27
	(1) 重要文化財	P 27
	(2) 重要伝統的建造物群保存地区・重要文化的景観	P 31
	(3) 史跡・名勝・天然記念物	P 32
8	埋蔵文化財保護のための事前協議	P 35
9	埋蔵文化財の保護(国庫補助事業)	P 37
10	発掘調査	P 39

## II 資料編

### 1 文化財

- (1) 文化財の指定状況(国・北海道) . . . . . P 40
- (2) 国指定・選定文化財一覧 . . . . . P 41
- (3) 道指定文化財一覧 . . . . . P 49
- (4) 管内別市町村指定文化財一覧 . . . . . P 55
- (5) 登録文化財一覧 . . . . . P 56
- (6) 文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画一覧 . . . . . P 60
- (7) 令和5年度北海道文化財保護強調月間実施事業一覧 . . . . . P 60
- (8) 文化財パトロール . . . . . P 73
- (9) 史跡名勝天然記念物の現状変更等許可件数 . . . . . P 73
- (10) 銃砲刀剣類の登録状況 . . . . . P 74

### 2 埋蔵文化財

- (1) 市町村別埋蔵文化財包蔵地数一覧 . . . . . P 75
- (2) 埋蔵文化財保護のための事前協議件数と北海道実施の所在・試掘調査一覧 . . . P 76
- (3) 北海道実施の管内別埋蔵文化財所在調査・試掘調査一覧 . . . . . P 76
- (4) 管内別発掘調査一覧 . . . . . P 76
- (5) 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事の届等件数 . . . . . P 76
- (6) 埋蔵文化財包蔵地の発見届等 . . . . . P 77
- (7) 出土文化財認定件数と出土遺物量 . . . . . P 77
- (8) 出土文化財譲与件数 . . . . . P 77

### 3 その他

- (1) 北海道教育推進計画 . . . . . P 78
- (2) 令和5年度北海道教育委員会の活動状況に関する点検・評価 . . . P 80
- (3) 北海道文化財保護審議会 . . . . . P 83
- (4) 北海道文化財保護審議委員一覧 . . . . . P 83
- (5) 銃砲刀剣類登録審査会 . . . . . P 84
- (6) 北海道銃砲刀剣類登録審査委員 . . . . . P 84
- (7) 北海道立埋蔵文化財センター . . . . . P 84
- (8) 北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会 . . . . . P 85
- (9) 北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会有識者一覧 . . . . . P 86
- (10) 北海道古代集落遺跡群保存活用協議会代表者会議 . . . . . P 86
- (11) 文化財情報の発信 . . . . . P 86
- (12) 文化財関係機関・団体リンク . . . . . P 87

## I 令和5年度文化財保護の主なあゆみ

### ○新指定(国指定・国登録)の文化財

遠軽町の「北海道白滝遺跡群出土品」が国宝に、北見市の「北海道常呂川河口遺跡墓坑出土品」が重要文化財に、別海町の「西別湿原ヤチカンバ群落」が天然記念物に指定されました。

新ひだか町の「レースホース牧場(旧大日本競走馬生産)本厩舎」、富良野市の「島田家住宅主屋」、石狩市の「旧山谷家住宅石倉(樋口季一郎記念館)」「旧山谷家住宅木倉」、留寿都村の「ヒノキ新薬株式会社ルスツ山寮」が有形文化財(建造物)に、鷹栖町の「鷹栖の装蹄用具及び関連資料」が有形民俗文化財に登録されました。

### ○新指定(道指定)の文化財

木古内町の「佐女川神社寒中みそぎ神事」が無形民俗文化財(風俗慣習)に、上ノ国町の「勝山館跡宮ノ沢右岸出土品」が有形文化財(考古資料)に指定されました。

### ○世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」保護の取組

北海道内の構成資産・関連資産や出土品等を解説するデジタルコンテンツを作成し、このコンテンツも使用した小中学生を対象とするゲストティーチャー授業を実施したほか、北海道・秋田県・岩手県の児童生徒が日頃の世界遺産学習や取組の成果を発表する世界遺産子どもサミットを開催しました。

### ○北海道文化財保護強調月間の取組

北海道教育委員会は関係機関5者と共同で、平成20年度から毎年10月8日～11月7日を北海道文化財保護強調月間に設定しています。この月間の設定は、道内にある貴重な文化財の価値を正しく理解し、地域全体で後世に伝えていくため、子どもたちや地域の人々が文化財に親しむ環境づくりの推進を目的としたものです。

### ○アイヌ民俗文化財の保存・伝承

かなり金成マツノートの整理・翻訳等の実施、及び令和5年度アイヌ民俗文化財調査報告書を刊行しました。

### ○文化財の保存整備

北海道や市町村が主体となって、国庫補助を活用した重要文化財の保存・修理や史跡整備などの保存整備事業を46件実施しました。

### ○埋蔵文化財の保護

埋蔵文化財については、開発事業に伴う104件の所在調査・試掘調査を実施し、開発計画の変更や、事前の発掘調査を求めるなどの調整を行いました。

埋蔵文化財の発掘調査は41件が実施されました。

## 1 新たに指定・登録された文化財

国指定は国宝が1件、重要文化財が1件、天然記念物が1件、道指定は無形民俗文化財（風俗慣習）が1件、有形文化財（考古資料）が1件、国登録は有形文化財（建造物）が5件、有形民俗文化財が1件ありました。

### （1）国指定文化財

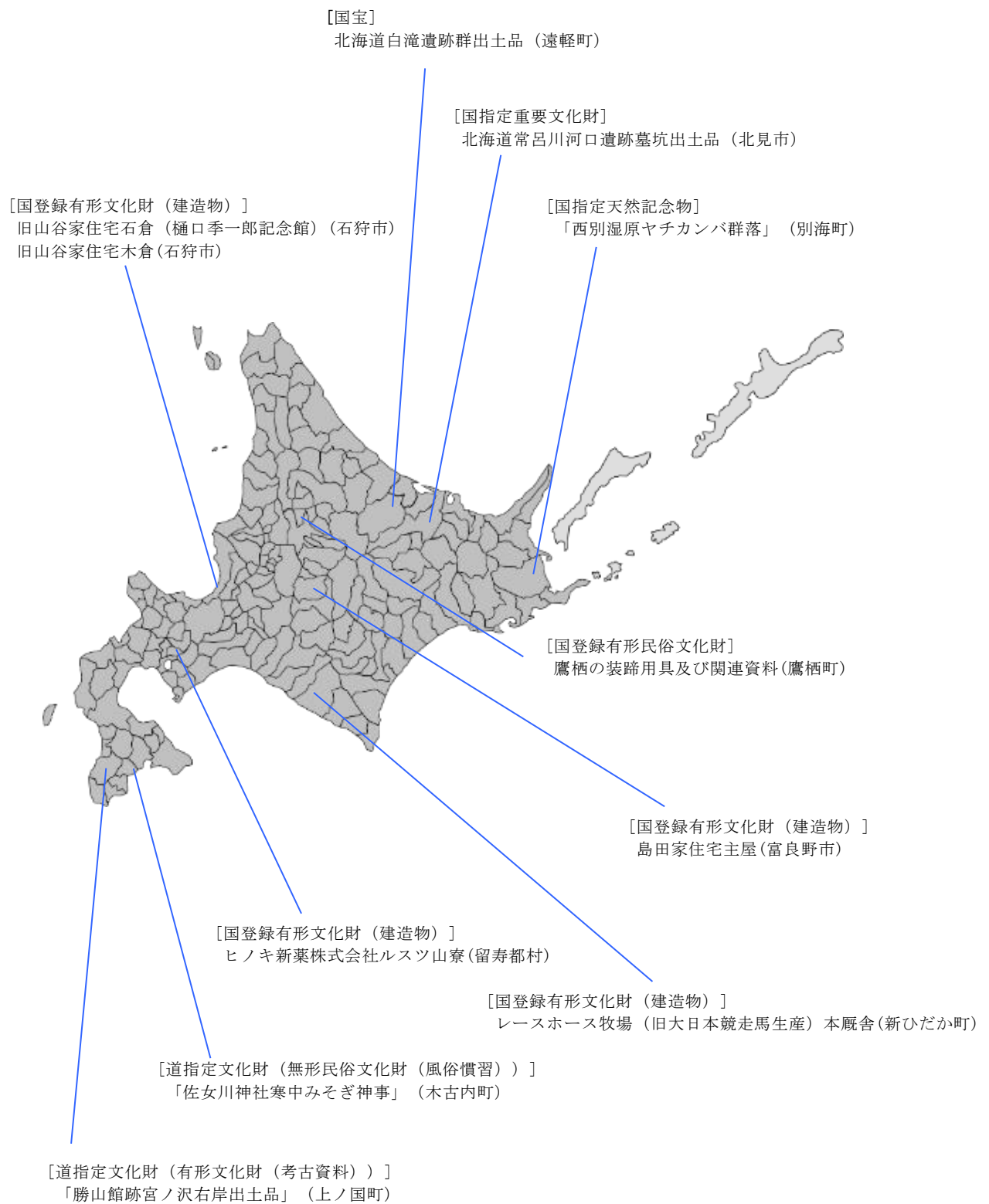
- 国宝 [令和5年6月27日付け]  
「北海道白滝遺跡群出土品」（遠軽町）
- 重要文化財 [令和5年6月27日付け]  
「北海道常呂川河口遺跡墓坑出土品」（北見市）
- 天然記念物 [令和6年2月21日付け]  
「西別湿原ヤチカンバ群落」（別海町）

### （2）道指定文化財

- 無形民俗文化財（風俗慣習） [令和5年11月28日付け]  
「佐女川神社寒中みそぎ神事」（木古内町）
- 有形文化財（考古資料） [令和5年11月28日付け]  
「勝山館跡宮ノ沢右岸出土品」（上ノ国町）

### （3）国登録文化財

- 有形文化財（建造物） [令和5年8月7日付け]  
「レースホース牧場（旧大日本競走馬生産）本厩舎」（新ひだか町）
- 有形文化財（建造物） [令和6年3月6日付け]  
「島田家住宅主屋」（富良野市）  
「旧山谷家住宅石倉（樋口季一郎記念館）」（石狩市）  
「旧山谷家住宅木倉」（石狩市）  
「ヒノキ新薬株式会社ルスツ山寮」（留寿都村）
- 有形民俗文化財 [令和6年3月21日付け]  
「鷹栖の装蹄用具及び関連資料」（鷹栖町）



## (1) 国指定文化財

### ① 国宝

「北海道白滝遺跡群出土品」 (ほっかいどうしらたきいせきぐんしゅつどひん)

【指 定 日】令和5年6月27日

【所 有 者】遠軽町 (遠軽町埋蔵文化財センター保管)

【解 説】全1,965点から成る一括。約15,000～30,000年前の遺物であり、わが国で最も古い国宝です。

後期旧石器時代前半期の小形剥片石器を主体として石刃技法が顕著な石器群と、同時代後半期の細石刃石器群、および細石刃石器群に優美で精巧な作りの尖頭器を伴う石器群などに分けられ、後期旧石器時代前半期から後半期に至る石器の変遷と組合せを明瞭に追うことができます。中でも、全長36.3センチメートルの超大形の尖頭状石器をはじめ、多数の木葉形尖頭器、それらの製作にかかわる数百点の剥片・碎片を接合した接合資料・石核、現存最大長の大形石刃等が注目されます。わが国の旧石器時代遺跡出土遺物の中でも、内容・質量ともに群を抜く一括資料です。(後期旧石器時代・約15,000～30,000年前)



提供：佐藤雅彦

## ② 重要文化財

### 「北海道常呂川河口遺跡墓坑出土品」

(ほっかいどうところがわかこういせきぼこうしゅつどひん)

【指 定 日】 令和5年6月27日

【所 有 者】 北見市（北見市とてら遺跡の森保管）

【解 説】 オホーツク海に注ぐ常呂川河口に形成された、縄文時代晩期から続縄文時代中葉の集団墓地からの出土品。全1,805点の遺物で構成されるものです。

装飾性に富み、方形あるいは革袋形もある奇抜な器形の土器群、墓坑に副葬された黒曜石製の石鏃、琥珀や硬玉、ガラスなどから作られた多種多量の玉類等が注目されます。特にサハリン産とみられる琥珀の玉は極めて多量で、その形状も多彩です。これらは北海道東部における、縄文時代から続縄文時代の文化内容を示すとともに、当時の葬送儀礼や副葬品の実態を示す上で貴重な資料です。（縄文時代晩期～続縄文時代・紀元前5～4世紀）



提供：佐藤雅彦

### ③ 天然記念物

「西別湿原ヤチカンバ群落」 (にしべつしつげんやちかんばぐんらく)

【指 定 日】 令和6年2月21日

【管理団体】 別海町

【員 数】 1件

【解 説】 ヤチカンバは、主にユーラシア大陸北東部に分布し、国内では2か所<sup>かくりぶんぶ</sup>にのみ<sup>ひょうき</sup>隔離分布する<sup>いそんしゆ</sup>氷期の遺存種であり、過去の遺傳的多様性をよく維持していると考えられることから学術的に貴重なものです。西別湿原は、北海道東部における典型的な湿原であり、ヤチカンバの良好な生育地です。



提供：別海町教育委員会

## (2) 道指定文化財

### ① 無形民俗文化財（風俗慣習）

「佐女川神社寒中みそぎ神事」（さめがわじんじゃかんちゅうみそぎしんじ）

【指 定 日】令和5年11月28日

【所 在 地】木古内町

【保存団体】佐女川神社

【解 説】佐女川神社寒中みそぎ神事は、木古内町に所在する佐女川神社の神事として永く伝承されてきたもので、行修者と呼ばれる4人の青年が神社に参籠して鍛錬を繰り返しつつ垢離をとり御神体を奉持して沐浴する形態をとっています。

天保2年（1831年）から続く歴史性に加え、神事期間中の行修者による厳格な潔斎に関する慣行は、鍛錬部と呼ばれる先輩の行修者から引き継がれているもので、「穢」に対する漁民の心情を反映した習俗として地域的特色が豊かな神事です。

また、神事としての側面のみならず、町観光協会などとの連携による観光イベントとしての要素を加えつつ、地域に根付いた祭りとなっており、文化財の保存と活用の在り方を理解する上で特に重要なものであります。



提供：木古内町教育委員会

## ② 有形文化財（考古資料）

「勝山館跡宮ノ沢右岸出土品」（かつやまだてあとみやのさわうがんしゅつどひん）

【登録日】令和5年11月28日

【所在地】上ノ国町字大留 50-1

【員数】88点（陶磁器43点、木製品32点、骨角器11点、金属製品2点）

【解説】北海道最古の民家である国指定重要文化財旧笹浪家住宅の保存修理工事に伴う平成11年（1999年）の発掘調査により発見された、慶長期（16世紀末～17世紀初頭）の出土品です。和人と関連する形代、「む志ろ」（むしろ）と墨書きされた木簡などとともに、アイヌ文化と関連するイクパスイ（捧酒箸）、弓、シロシ（印）付の漆器盆や骨角器が混在していることが特徴です。この出土品は、中近世を通じての和入地におけるアイヌ民族との交易・交流を考える上で、資料的価値が高いものです。



木製品



提供：上ノ国町教育委員会

### (3) 国登録文化財

#### ① 有形文化財（建造物）

##### 「レースホース牧場（旧大日本競走馬生産）本厩舎」

（れーすほーすぼくじょう（きゅうだいにほんきょうそうばせいさん）ほんきゅうしゃ）

【登録日】令和5年8月7日

【年代】昭和36年建設

【所在地】日高郡新ひだか町三石歌笛 379

【解説】神居岳南西山麓に位置する競走馬牧場の厩舎。

西側のパドックを正面とする長大な厩舎で、二階は干し草などの飼料置き場、一階は馬房が並ぶ典型的な造りとなっており、馬産地の雄大な景観をつくっています。



提供：新ひだか町教育委員会

「島田家住宅主屋」(しまだけじゅうたくおもや)

【登録日】令和6年3月6日

【年代】昭和16年建設(昭和28年頃増築)

【所在地】富良野市若松町348他

【解説】富良野市街中心部に位置する地元製材所役員の和風住宅。

地元産の良質なアカエゾマツやエゾマツが用いられ、南西に北海道では希少な縁側を備えるなど、書院造風の上質な外観を有します。



提供：富良野市教育委員会

## 「旧山谷家住宅石倉（樋口季一郎記念館）」

（きゅうやまやけじゅうたくいしくら（ひぐちさいちろうきねんかん））

【登録日】令和6年3月6日

【年代】昭和13年建設（昭和20年代・平成31年改修）

【所在地】石狩市八幡町高岡 103-3

【解説】知津狩川南岸の農村集落に位置する石倉。

かつて一階は米倉、二階は物置として使用されたもので、札幌軟石を用いた外観が集落景観を形成しています。



提供：石狩市教育委員会

「旧山谷家住宅木倉」(きゅうやまやけじゅうたくきくら)

【登録日】令和6年3月6日

【年代】明治44年建設(昭和50年頃改修)

【所在地】石狩市八幡町高岡102-16

【解説】石倉の南西に東面して建つ、米や雑穀を収納する木倉。

建築年代が分かっている木造の倉として市内で最古級であり、山谷家主屋、納屋及び石倉とともに、水稻栽培を主とした地域を象徴する景観となっています。



提供：石狩市教育委員会

## 「ヒノキ新薬株式会社ルスツ山寮」

(ひのきしんやくかぶしきがいしゃるすつさんりょう)

【登録日】令和6年3月6日

【年代】昭和47年建設

【所在地】虻田郡留寿都村字泉川 645 他

【解説】尻別岳山麓に位置する企業の保養所。

外壁に濃淡に富んだ煉瓦積・石積が用いられた独特な外観であり、要所に彫塑的造形がなされた、建築家・白井晟一による北海道唯一の作品です。



提供：留寿都村教育委員会

## ② 有形民俗文化財

### 「鷹栖の装蹄用具及び関連資料」

(たかすのそうていようぐおよびかんれんしりょう)

【登録日】令和6年3月21日

【年代】明治初期～昭和中期(1880年～1960年頃)

【所在地】鷹栖町郷土資料館(北海道上川郡鷹栖町南1条1丁目1-19)

【解説】馬の蹄鉄の製造と装着に使用された用具、399点の収集。

北海道の開拓に重要な役割を果たした馬の蹄鉄とその製造や装着に使用された用具の収集です。

本収集は、北海道の石狩川上流に位置する鷹栖の装蹄所で使用されていた装蹄用具で、通常の蹄鉄のほか、氷上用や泥炭用の蹄鉄など各種の蹄鉄類をはじめ、古くなった蹄鉄の剥取、蹄の削蹄、新しい蹄鉄の成形と取り付けの各工程で使用された用具、馬の蹄の治療に使用された用具などが収集されています。

このほかに、馬による農耕や木材の運搬に使った用具、馬具などを関連資料として含めています。



提供：鷹栖町教育委員会

## 2 世界遺産の保護に向けた取組について

### (1) 縄文遺跡を紹介するデジタルコンテンツの作成

令和3年（2021年）7月の「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産の登録を受けて、児童生徒の縄文遺跡への関心を高め、歴史・文化の理解、郷土への誇りと愛着の醸成へとつなげることを目的として、学校の授業等で活用できるデジタルコンテンツを作成しました。

2022年度に作成したVRツアーデータと3Dデータに加えて、2023年度には「北海道の縄文文化を学ぼう！」というタイトルでテーマ別に縄文文化を解説する5分程度の動画を5本作成しました。

これらのデジタルコンテンツは、北海道教育委員会のホームページ「学んでみよう～北海道の縄文遺跡」で公開しているほか、動画はYouTube上で公開しています。

動画タイトル	キーワード
縄文土器はどうやって作ったの？	縄文土器の製作、文様の付け方 野焼きの様子、土器の地域性
定住生活を支えた土器	北黄金貝塚（伊達市）、海水面の変動 土器を用いた煮炊き、器形の違い
石で道具をつくる	遠軽町白滝の黒曜石原産地 打製石器の製作、磨製石器、海を越えた交流
石からみる縄文時代の衣食住	石器の器種と用途（搔器、ドリル、削器、北海道式石冠、石皿、石斧）
自然と共に生きた縄文人のころ	土偶、土製品（足形付土版、土面）、石製品（ヒスイ製勾玉）、漆製品（櫛）



土器で食べ物を調理する様子



すり石（北海道式石冠）の紹介

ホームページ「学んでみよう～北海道の縄文遺跡」  
URL:<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/147722.html>



文化財・博物館課 YouTube チャンネル  
URL:<https://www.youtube.com/@do-bnh>



## (2) ゲストティーチャー授業の実施

小中学生を対象とするゲストティーチャー授業を、10校で実施しました。児童生徒が使用している「一人一台端末」で縄文遺跡群を紹介する出土品の3Dデータ、画面上で遺跡を探索できるVRツアーデータの操作、土器づくりの様子などの動画を視聴するとともに、地元で出土した土器片や石器の実物を手に取って観察し、縄文時代を自分たちの身近なものに感じてもらう工夫も取入れました。

授業後に行ったアンケートでは、これまで苦手だった歴史に興味を持ったこと、実際の博物館・資料館を訪れたい、縄文時代の衣食住について調べたいなど、自主的な学習の意欲を高める効果がみられました。



ゲストティーチャー授業の様子

## (3) 世界遺産子どもサミットの開催

世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産が所在する自治体の小・中学生が、それぞれの遺跡での学習や活動の成果を発表し、相互の縄文遺跡の保護や活用等にも興味を広げることにより、各地での遺跡保護や活用の取組をより一層推進するため、令和6年(2024年)2月1日にオンラインで開催しました。参加校・団体の発表は次のとおりです。

### ○発表の概要

#### ・千歳市立千歳第二小学校 (60名)

キウス周堤墓群をテーマとする体験学習を通じて学んだ縄文人の心や遺跡の価値を、後輩たちや多くの人々に伝えるために学びを深めていくことを発表しました。

#### ・北海道南茅部高等学校縄文クラブ (4名)

垣ノ島遺跡のデジタルコンテンツの紹介動画への出演を始めとする南茅部地域での活動、青森県内で行った青森南高等学校との交流や道の駅でのPR活動など、事業の成果と今後の活動の展望について発表しました。

#### ・北秋田市伊勢堂岱遺跡ジュニアボランティアガイド (2名)

伊勢堂岱遺跡の素晴らしさと、ガイド活動を通じて得られた体験を紹介し、ガイドスキルを更に向上させて、遺跡の語り部として情報発信を続けることを発表しました。

#### ・岩手県一戸町立一戸南小学校御所野愛護少年団 (16名)

総合的な学習の時間の調査活動として、仮説を立てながら道具の使用実験を行い、そこで学んだ縄文人の知恵や工夫を遺跡の価値と共に伝えていく取組を発表しました。

#### (4) 北海道世界文化遺産活用推進実行委員会

北海道に初めて誕生した世界文化遺産の顕著な普遍的価値の普及・啓発を通じて北海道の歴史と文化に対する住民の認識と郷土への理解・愛着を深め、これによる地域の活性化や次世代の文化遺産保存・活用の担い手育成を図ることを目的として、令和4年3月にこの実行委員会が設立されました。文化財・博物館課はその事務局業務を行っています。

令和5年度も前年に引き続き文化庁の「文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）」の交付を受け、人材育成事業・普及啓発事業及び調査研究事業を行いました。事業の内容や成果等は実行委員会ウェブサイトをご参照ください。

**北海道世界文化遺産活用推進実行委員会**  
URL: <https://www.ecpuwchh.org/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>



世界文化遺産に親しむオンライン教材



調査研究報告書・『ガイドブック』



#### (5) 縄文遺跡群の保存活用推進体制への参加

北海道と北東北三県では、各道県の知事、構成資産を有する市町長及び教育長で構成する縄文遺跡群世界遺産本部を設置しました。その監督下に縄文遺跡群世界遺産協議会が設置され、各道県の部会で道県内の連絡調整・情報提供を行っております。

北海道部会では、令和3年度（2021年度）に道の関係部局、国の行政機関、教育関係機関、縄文遺跡に関係する民間団体、経済団体や民間事業者も含めた「北の縄文・官民連携プラットフォーム」を設置し、令和4年度（2022年度）には担当者間で意見・情報交換を行うワーキングチームも追加されました。

文化財・博物館課では、企画調整ワーキングチームに参加し、縄文遺跡へ誘導するための道路標識やガイドのあり方等といった具体的なテーマについて、参加者が意見交換を行いました。

### 3 古代集落遺跡群の保護について

#### (1) 北海道東部の堅穴住居跡群調査

北海道には、先史時代の住居跡が窪みとして残り、それらが密集して分布する堅穴住居跡群(以下、堅穴群と略称)が多く確認されています。特に道内東部には、国内には他に例のない大規模な堅穴群がいくつも見られ、北海道を代表する文化財のひとつとして挙げるすることができます。

北海道教育委員会では、道内の関係遺跡を把握するための堅穴群調査を平成27年度から開始しました。平成27年度から29年度まで第1次調査、平成30年度から令和3年度まで第2次調査を実施しました。令和4年度から第3次調査計画を策定し引き続き調査を継続しています。

令和5年度は、大樹町の堅穴群を対象に堅穴の位置記録や保存状況を確認する現況調査を行いました。また、北海道立埋蔵文化財センター指定管理者が指定管理業務(重要遺跡確認調査)として、興部町興部豊野堅穴群(B)の発掘調査を実施しました。

- ・「堅穴群ポータル」のページ

<https://www.dokyoii.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/pd/portal.htm>

#### (2) 北海道古代集落遺跡群保存活用協議会

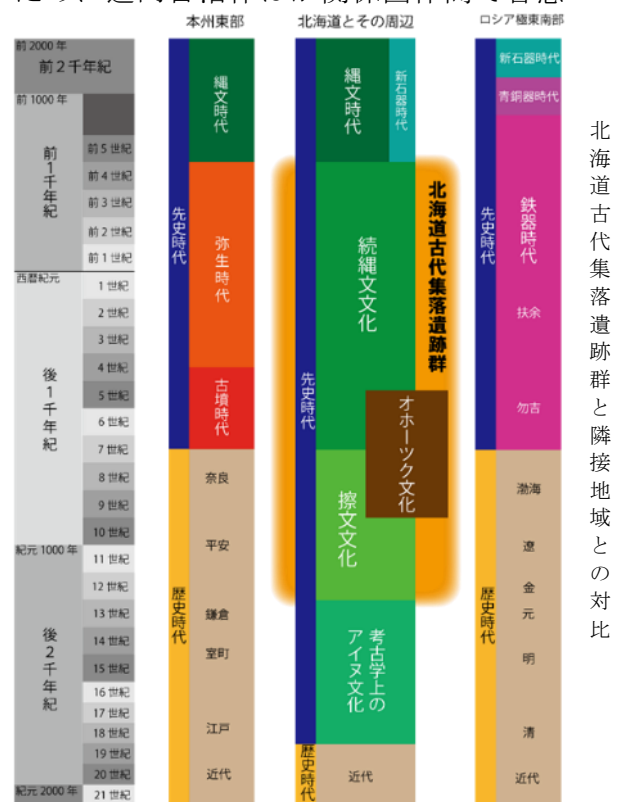
堅穴住居跡群をはじめ、これらに伴う貝塚や墳墓からなる古代の集落跡群について、文化財としての価値の明確化と発信のために道内自治体ほか関係団体間で合意形成し情報を共有することを目的として、令和3年度に北海道古代集落遺跡群保存活用協議会を設置しました。

令和5年度には2回の代表者会議を開催し、道内での増加が著しい太陽光発電設備と遺跡周辺の景観保全との調整等について情報共有したほか、「北海道古代集落遺跡群専門家委員会」での検討も踏まえ、この文化財群の価値や保存活用の方向性に対する協議会の考え方を示した「北海道古代集落遺跡群保存活用指針」を策定しました。

今後、この指針で示された基本的な立場を踏まえて協議会構成法人相互の一層の協調を図り、地域に固有の特徴を備え、北海道の歴史と文化の特性をよく示すこの遺跡群の保存と活用のための取り組みを進めていきます。

- ・「北海道古代集落遺跡群保存活用協議会」のページ

<https://www.dokyoii.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/201116.html>



## 4 日本遺産(Japan Heritage)について

「日本遺産 (Japan Heritage)」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを国が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

### 道内の日本遺産 (Japan Heritage) 認定概要(全5件)

#### (1) 江差の五月は江戸にもないーニシン繁栄が息づく町ー (平成29年度認定)

##### 【構成市町村】

江差町

##### 【ストーリーの概要】

江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りに、切妻屋根の建物が建ち並び、暖簾・看板・壁にはその家ごとの屋号が掲げられている。緩やかに海側へ下っている地形にあわせて蔵が階段状に連なり、海と共に生きてきた地域であることがうかがえる。

この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とその加工品の取引によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどであった。

ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く連綿と息づいている。



「ニシンによる繁栄が息づく江差の町並み」

##### 【令和5年度の取組】

- ・どさんこプラザ「春の檜山フェア」や日本遺産遺産関連イベントでのPR
- ・郵便局車両に、PRステッカーを添付
- ・雑誌「北海道生活」に特集記事を掲載

## (2) 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～

(平成 29 年度認定)

### 【構成市町村】

(北海道) 函館市・松前町・小樽市・石狩市、(青森県) 鱒ヶ沢町・深浦町・野辺地町、(秋田県) 秋田市・にかほ市・男鹿市・能代市・由利本荘市、(山形県) 酒田市・鶴岡市、(新潟県) 新潟市・長岡市・佐渡市・上越市・出雲崎町、(富山県) 富山市・高岡市、(石川県) 加賀市・輪島市・小松市・金沢市・白山市・志賀町、(福井県) 敦賀市・南越前町・坂井市・小浜市、(京都府) 宮津市、(大阪府) 大阪市・泉佐野市、(兵庫県) 神戸市・高砂市・新温泉町・赤穂市・洲本市・姫路市・たつの市、(鳥取県) 鳥取市、(島根県) 浜田市、(岡山県) 倉敷市・備前市、(広島県) 尾道市・呉市・竹原市、(香川県) 多度津町

### 平成 30 年度追加

※(北海道) 小樽市・石狩市、(青森県) 野辺地町、(秋田県) にかほ市・男鹿市・能代市・由利本荘市、(新潟県) 佐渡市・上越市、(石川県) 輪島市・小松市、(福井県) 坂井市・小浜市、(京都府) 宮津市、(大阪府) 大阪市、(兵庫県) 神戸市・高砂市・新温泉町・赤穂市・洲本市、(鳥取県) 鳥取市、(島根県) 浜田市、(岡山県) 倉敷市、(広島県) 尾道市・呉市

### 令和元年度追加

※(山形県) 鶴岡市、(新潟県) 出雲崎町、(石川県) 金沢市、(兵庫県) 姫路市・たつの市、(広島県) 竹原市、(香川県) 多度津町

### 令和 2 年度追加

※(石川県) 白山市・志賀町、(大阪府) 泉佐野市

### 令和 4 年度追加

※(岡山県) 備前市

### 【ストーリーの概要】

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。

また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。

これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。



「松前屏風」

【令和5年度の取組】

- ・日本遺産関連イベントでのPR
- ・高田屋嘉兵衛に関するDVDを函館市内の小学校に配布
- ・小樽市で、企画展『中村善策と「加賀の北前船主・西谷家」』の実施
- ・小樽市の児童が北陸の認定地を訪問する『北前船こどもフェリー使節団事業』の実施
- ・石狩市の道の駅や旧石狩小学校において、北前船のジオラマやニシンを題材に製作された人形を常設展示

(3) カムイと共に生きる上川アイヌ

～大雪山のふところに伝承される神々の世界～ (平成30年度認定)

【構成市町村】

上川町・旭川市・富良野市・愛別町・上士幌町・上富良野町・鹿追町・士幌町・新得町・当麻町・東川町・比布町

【ストーリーの概要】

美しく厳しい大雪山のふところに、カムイ～神～を見出し共に生きた“上川アイヌ”。

彼らは激流進む奇岩の渓谷に魔神と英雄神の戦いの伝説を残し、神々への祈りの場として崇めた上川アイヌの聖地には、クマ笹で葺かれた家などによりコタンを形成し祈りを捧げ続ける。

上川アイヌは「川は山へ遡る生き物」と考え、最上流の大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミントラ～神々の遊ぶ庭～として崇拝してきた。

神々と共に生き、伝承してきた上川アイヌの文化は、この大地に今も息づいている。



「大雪山の雄大な自然」

【令和5年度の取組】

- ・日本遺産関連イベントでのPR
- ・上川町の氷瀑祭りにおいて、アイヌ古式舞踊を披露

#### (4) 本邦国策を北海道に見よ！～北の産業革命「炭鉄港」～ (令和元年度認定)

##### 【構成市町村】

赤平市・小樽市・室蘭市・夕張市・岩見沢市・美唄市・芦別市・三笠市・栗山町・月形町・沼田町・安平町

##### 【ストーリーの概要】

明治の初めに命名された広大無辺の大地「北海道」。その美しくも厳しい自然の中で、「石炭」・「鉄鋼」・「港湾」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。

当時の繁栄の足跡は、空知の炭鉱遺産、室蘭の工場景観、小樽の港湾そして各地の鉄道施設など、見る者を圧倒する本物の産業景観として今でも数多く残っています。

100 km圏内に位置するこの3地域を原動力として、北海道の人口は約100年で100倍になりました。その急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、これまでにない北海道の新しい魅力として、訪れる人に深い感慨と新たな価値観をもたらします。



##### 【令和5年度の取組】

- ・炭鉄港めしのスタンプラリー事業の実施
- ・航空会社と連携した情報発信（ANAの公式サイト内に「炭鉄港」サイトを公開など）
- ・ガイド付きミニツアーの実施（三菱美唄炭鉱堅坑櫓、沼町昭和炭鉱史跡など）
- ・多言語対応ガイドの養成
- ・炭鉄港カードの配付

(5) 鮭の聖地の物語～根室海峡一万年の道程～ (令和2年度認定)

【構成市町村】

標津町・根室市・別海町・羅臼町

【ストーリーの概要】

北海道最東の海、根室海峡。この地では遥か一万年の昔から、絶えず人々の暮らしが続いてきました。その支えとなったのは、大地と海を往来し、あらゆる生命の糧となった鮭です。毎年秋に繰り返される鮭の遡上という自然の摂理の下、当地では人と自然、文化と文化の共生と衝突が起こり、数々の物語と共に、海路、陸路、鉄路、道路という、根室海峡に続く「道」が生まれます。一万年に及ぶ時の流れの中で、鮭に笑い、鮭に泣いた根室海峡沿岸。ここはいまも、人と自然、あらゆるものが鮭とつながる「鮭の聖地」です。



「鮭山漬け寒風干し」



「野付半島」



「標津遺跡群

伊茶仁カリカリウス遺跡」

【令和5年度の取組】

- ・オリジナルカプセルトイの制作
- ・ゆかりの地展示会の実施（ウポポイ、三重県松浦武四郎記念館）
- ・日本遺産を絡めたテレビ番組制作事業(HTB「吉田類の北海道ぶらり街めぐり」)

## 5 北海道文化財保護強調月間について

平成 20 年度に、北海道教育委員会、札幌市、北海道都市教育委員会連絡協議会、北海道町村教育委員会連合会、北海道文化財保護協会及び北海道博物館協会の 6 者は共同で、毎年 10 月 8 日～11 月 7 日の期間を、「北海道文化財保護強調月間」として設定しました。

期間中には、各市町村教育委員会や道内の博物館等の協力により、道内にある貴重な文化財の価値を正しく理解し、地域全体で後世に伝えていくため、子どもたちや地域の人々が文化財に親しむ環境づくりの推進を目的として、文化財公開・活用事業（指定文化財の一般公開や文化財に関連する事業）を実施しています。

なお、第 16 回北海道文化財保護強調月間ポスターには、（一財）北海道文化財保護協会主催の「子どもの文化財愛護活動推進事業」における体験活動の写真を掲載し、文化財への興味・関心の醸成、保存・活用の啓発に努めました。

今後も、市町村教育委員会等の協力を得ながら、様々な形で、児童・生徒の皆さん、そして、広く道民の方々が文化財を身近に感じ、親しんでいただく機会の提供に取り組めます。

- ・「文化財保護強調月間」のページ

<https://www.dokyojoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kyoutyougekkan.htm>

### 「北海道文化財保護強調月間」の設定の趣旨

私たちの郷土・北海道には、豊かな自然や北国の風土の中で育まれてきた縄文時代の遺跡やアイヌの人たちの伝統的な文化をはじめ、全国各地からの移住や北海道開拓によりもたらされた多様な文化財が数多く残されています。

これらの文化財は、本道の歴史や文化を理解する上で欠くことのできないものであり、現代を生きる私たちに、先人の知恵と技を伝え、日々の暮らしに精神的な豊かさや潤いをもたらす道民の貴重な共有財産です。

しかし、一方で、長い歴史の中で受け継がれてきた文化財の中には、社会構造の変化や少子・高齢化の進行などに伴い、保存や伝承が困難となっているものもあるため、文化財に対する親しみや理解を深めながら、次世代に確実に守り伝えていくことが、いま、課題となっています。

私たち 6 団体は、市町村教育委員会や関係団体の皆様方と連携協力し、道民の方々が文化財に親しむ環境づくりを推進するとともに、貴重な文化財を地域全体で継承していくため、国の「文化財保護強調週間」や「北海道教育の日」との連動を図り、新たに、毎年 10 月 8 日から 11 月 7 日までを「北海道文化財保護強調月間」として設定することをここに宣言します。

平成 20 年 7 月 17 日



見て感じ  
心にきざむ  
文化財

写真：子どもの文化財愛護活動推進事業  
「親子化石発掘体験ツアー」  
主催：（一財）北海道文化財保護協会  
協力：むかわ町穂別博物館  
場所：むかわ町穂別博物館

## 第16回 北海道文化財保護強調月間

令和5年10月8日(日)～11月7日(火)

北海道教育委員会は  
道内の貴重な文化財を守り伝えるために  
毎年10月8日から11月7日を「北海道文化財保護強調月間」と定め  
市町村の教育委員会や文化財に関係する団体と連携して  
文化財の公開や展示会、講演会の開催など  
道民の皆様が文化財に親しむことのできる環境づくりを進めています。



共同設定団体  
北海道教育委員会／札幌市／北海道都市教育委員会連絡協議会  
北海道町村教育委員会連合会／北海道文化財保護協会／北海道博物館協会

お問い合わせ先  
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課  
TEL(011)204-5749  
URL: <https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/>



令和5年度北海道文化財保護強調月間ポスター

## 6 アイヌ民俗文化財の保存・伝承

北海道の貴重な文化的所産であるアイヌ文化は、伝承者の高齢化などにより世代間の伝承が難しい現状にあり、記録等を行うことが困難となる可能性があります。このため、北海道教育委員会は、アイヌの人たちの諸文化を調査・記録するとともに、地域の伝承活動を支援し、貴重なアイヌ文化を次世代に継承するため、様々な事業を行っています。

### (1) アイヌ民俗文化財調査事業

アイヌ民俗文化財に係る調査等を行い、報告書を刊行しました。報告書はアイヌ文化に関係する道内外の研究機関及び大学図書館、主要な公立図書館等に配付し、活用を図りました。

#### [金成マツノート整理・翻訳、刊行]

ユーカラ等の口承文芸をローマ字で記録した伝承者・金成マツのノートを整理・翻訳し、その成果を次の2冊の報告書として刊行しました。

- ・ユーカラシリーズ 74

『金成マツ筆録アイヌ叙事詩「笹伏せ(2)」』

萱野志朗 訳

- ・ユーカラシリーズ 75

『金成マツ筆録アイヌ叙事詩「女性叙事詩 オタサムンマッが獣皮の中に入る」』

高橋靖以 訳

#### [令和5年度アイヌ民俗文化財調査報告書]

アイヌの人たちが祖先から伝承してきた生活や生産生業に関する民俗技術について、テーマを設定して調査を実施し、報告書を刊行しました。

- ・生活習慣(食)に関する民俗技術2 藤村久和、花輪陽平 著

### (2) アイヌ民俗文化財伝承・活用事業

アイヌ文化への理解を促進し、アイヌ民俗文化財を保存・伝承するため、伝統的な民俗技術及び民俗芸能を学ぶことを目的とした次の事業を実施しました。

- ① アイヌ民俗技術伝承講座：道内5会場  
(延べ60講座、延べ参加人員389人)
- ② アイヌ民俗芸能伝承講座：道内5会場  
(延べ40講座、延べ参加人員401人)



< 伝承講座風景 >